



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 136 号

平成31年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

平成三十年度を振り返って



栃幼連理事長 石嶋 勇

皆様の温かいご支援とご指導を賜り、平成三十年度が無事終わろうとしております。

衷心より感謝申し上げます。

平成三十年四月一日から内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第一号をもって公示され、幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領・保育所保育指針が改訂され、それに基づいた幼児教育・保育がスタートしました。

私たちの長年の夢でありました。保護者の費用負担軽減を図るための「幼児教育無償化」が、いよいよ実現しようとしています。

安倍内閣は二〇一九年十月一日から「幼児教育を無償化」するとしています。

恒久的財源として消費税率の引き上げ分の一部を充て、福祉・介護・医療、そして新たに子育て支援の四本柱となり社会保障制度の充実を図ることと併せて教育・保育内容の充実向上は必須としています。

私たちはこの施策がすべての子どもに等しく幸せになる仕組みであってほしいと願っております。

栃木県への「振興活動」については、平成三十一年度予算や政策に関する要望を、十一月二十二日にとち

ぎ自民党の政策懇談会に臨み説明してまいりました。

そして、十二月十四日には知事室を訪ね要望書を福田富一知事へ直接手渡すことができました。

その内容は「幼児教育の質の向上」や教職員の「処遇改善」「保育環境の充実」を実現するためにも、運営費単補助の増額や教職員の為の退職金振興財団への補助率の引き上げを要望してまいりましたのでご報告いたします。今後引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成三十年度を振り返って

こども政策課長 桐渕 ゆか



春便りのうれしい季節になり、今年度も残すところあとわずかになりました。平成三十年度を振り返りますと、栃木県ではオールとちぎで子ども・子育て支援に取り組むため、「とちぎの子ども・子育て支援条例」を制定し、今年一月一日から施行したところです。また、国においては幼児教育・保育の無償化に向け、準備が進められてきました。

さて、御承知のとおり我が国は、急速な少子高齢化の進行と人口減少という、かつて経験したことのない課題に直面しており、特に少子化対策は、国や地方自治体において、喫緊かつ最優先に取り組まなくてはならない課題となっております。

こうした中、幼児教育や子育て支援の充実に関する県民の期待は益々高まっており、幼稚園・認定こども園は、幼児教育の場としてはもとより、地域への施設開放や保護者間の交流促進、子育てに関する情報の提供など、子育て支援の中核的施設として大きな役割を担っていただいております。

県としても、県民が安心して子どもを生み、育てることができ、子どもが健やかに成長することができるよう、地域社会の実現を図るため、子育て家庭の多様なニーズを把握しながら、今年十月からの幼児教育・保育の無償化への対応や、幼稚園・認定こども園が行う様々な事業が円滑に進むよう、引き続き支援して参ります。

今後とも市町等と連携して、さらなる子育て支援の充実に向けて参りますので、貴連合会におかれましては、子どもたちが心豊かに育ち、明るく生き生きと育つことができますよう、一層の御尽力をよろしくお願い申し上げます。



設置者・園長研修会

開催日…平成三十一年一月十八日(金)
会場…ホテルニューイタヤ
参加…百三十二名

研修一

演題 「幼児教育の無償化について」

講師 栃木県保健福祉部 こども政策課
副主幹 大根田 敦氏



来年度十月から開始される予定の『幼児教育の無償化』について、現時点で分かっていることという形での講演となった。参加者の誰もが興味を持って耳を傾ける研修課題だったが、県としてもまだまだ分からないことも多いようで、あまり新たな情報を得られず、やはり「難しい課題」のままでというのが率直なところである。

ただ、保育料そのものや一時預かりの問題、そして各施設類型によって対応の仕方が当然ながら変わってくるはずということで、問題点がより鮮明に分かり始めたため、今後の情報収集がより貴重になることもはっきりした研修となった。

研修二

演題 「栃木県幼児教育センターの事業等について」

講師 栃木県幼児教育センター
センター長 新村 幸江氏



研修二では、「栃木県幼児教育センターの事業等について」と題して、栃木県幼児教育センター センター長 新村 幸江氏が講演を行った。

まず始めに、平成三十年度 幼児教育センター調査研究「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために」の紹介があった。未就学児は就学を境に、経験カリキュラムから教科カリキュラムへ変わる。それによって、つまずき上れない段差やでるのにやらなければならない下りたかない段差が生ずる。接続期には「カリキュラムをつなぐ」「保育と授業をつなぐ」「一人一人をつなぐ」ことが重要である。本調査研究のリーフレットは、三月末に発行・配布予定である。次に、平成三十一年度 幼児教育センター事業の研修について説明があった。幼小連携に関する

もの、教育課程に関するもの、スキル等に関するもの、ステージごとのものに分類される。それぞれステージⅠ、Ⅱ、Ⅲに振り分けがされ参加対象者が明記されているためとても分かり易い。設置者・園長は勿論のこと、幼児教育の質の向上のために教職員へも参加を促すよう要望があった。最後に平成三十年度 栃木県教育研究発表大会 幼小連携部会についての開催案内があった。幼小連携は幼児教育にとっても大きな課題の一つであることから質の向上に取り組んでいきたい。

研修三

演題 「これからの幼児教育について」

あるべき幼児教育者の姿を考える

講師

学校法人光明学園光明幼稚園 園長
全日本私立幼稚園連合会 副会長
公益財団法人
全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
専務理事

田中 雅道氏

1 なぜ幼児教育・保育の無償化が実現したのか

・そもそも幼児教育無償化を要望していたのに
・どういった仕組みで幼児教育・保育の無償化を実行するのか
・預かり保育への加算はどうなるのか
・満三歳児は対象になるのか

・在園の確認

・どの範囲が無償の対象となるのか

2 これからの幼稚園・認定こども園の姿

・低い保育料を設定して多くの園児を集めるという手法の終了

・質を高めるとはどういうことか

①教員の資質向上・処遇改善

②園の評価の在り方

③保育内容をどう高めるか

④幼稚園教育要領が求める新しい学力観

・良質な教育を提供するための保護者負担の在り方

3 学校法人としての権利と義務

・どの範囲までの情報公開が求められているか

・情報公開請求があった時の対応の仕方

・法律上作成が義務付けられている書類整備

4 これからの幼児教育の展望

・二歳児接続保育にどう取り組むか

・省庁再編と補助金の行方

・公定価格と私学助成の法的性格の違い

・組織の大切さと義務教育年齢の引き下げ

5 そもそも私立幼稚園とは

・事業を継続することの意味

・どのような幼児教育を目指すのか

・約二時間半「これからの幼児教育・保育」

「これからの幼稚園・認定こども園」について

メモ

幼児教育・保育

幼稚園・認定こども園

について

メモ

幼児教育・保育

幼稚園・認定こども園

について

モやパワーポイントも使わず熱く語ってくれた田中先生。とても解りやすく、ユーモアも入れながらなのであつと言つ間の2時間半であつた。



研修会だより

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成三十一年度 全国研究研修担当者会議

期日 平成三十一年 一月十七日・十八日

会場 京都ガーデンパレス

参加 教育研究委員長 小倉庸寛
教育研究委員 大嶋 裕

＜二日目＞

一、講演「乳幼児教育の質を維持・向上させるために」地域で園の果たす役割」

講師

神戸大学大学院准教授

北野 幸子氏

二、報告「保育の質向上チャレンジビジョンについて」

講師

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長

東 重満氏

三、報告「全日私幼研究機構の取り組みについて」

講師

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員長

加藤 篤彦氏

四、テーマ別協議会

テーマ1 研修数の拡大の工夫

テーマ2 ECEQについて

テーマ3 研修の持ち方の工夫

テーマ4 学校評価を広げるための工夫

＜二日目＞

一、講演「三歳未満児の発達ならびに保育及び家庭教育の支援について」

講師

梅花女子大学教授・あけぼの幼稚園園長

（公財）全日私幼研究機構

研究研修副委員長 河原恒太郎氏

（公財）全日私幼研究機構

研究研修委員 水原 紫乃氏

（公財）全日私幼研究機構

研究研修専門委員 亀ヶ谷 忠宏氏

全国から研修研究担当者が集まり、今年度の教育研究課題や今年のトレンドを話し合う、年に一度の会議とあって各県の担当者

の熱気もさることながら、今年就任された新理事長・東先生のさらに熱

い意気込みを感じました。また新委員長の加藤先生の国との折衝や無償化を含めた説明は、これからの幼児教育への道筋を示す大変聞き応えのあるものでした。さらに講演では、神戸大学大学院准教授



た。チャレンジビジョンとは目標を7つのアクションにし、幼児教育の無償化の実施に際し、公教育としての位置づく全国の幼稚園・認定こども園の「質の維持・向上」があまねく図られることを目的としているものです。

アクション1 子どもの安心安全を図る仕組み。アクション2 保育者の資質向上への取組↑ここに免許状上進が示されています。アクション3 学校評価と改善システムの普及。第三者評価↓ECEQの普及はここで示されています。アクション4 質の維持向上を支える体制整備の充実。アクション5 保護者等への幼児教育理解への普及推進。アクション6 教育課程の編成力・発信力を高める基礎的取組。アクション7 制度の見直しへの提言。

この多岐にわたる研修内容と研修分野のバランスを取りながら研修・研究を設定していくことは容易ではありません。今後は公的支援に見合った教育・保育の提供と社会的な責任を担うことをより求められます。「不易流行」の名の下に、見通しを持って前進していくことが必要なのだろうと解釈をいたしました。今年度も教育研究委員の活動を活発にし、教員のキャリアアップにつなげられるように尽力したいと思えます。

（教育研究委員長 小倉 庸寛）



第四回 〇・一・二歳児研修

期日 平成三十一年一月二十二日(火)
会場 ホテルニューイタヤ
(天平の間)

参加 九十六名

内容 「子育ての支援を考える」
講師 鎌倉女子大学短期大学部
教授 佐藤 康富氏

「梯子ではなくジャン
グルジム」という
一冊の本の紹介か
ら始まったこの研
修。・仕事はジャ
ングルジムのように色んな道から登
れる、歩ける・子育て支援もまた色
んな道筋から見えてくるものがある
ということを教えてくださった。
続いて、受講者同士の自己紹介が
行われ、それまで緊張していた雰
気も一気に和み、問題について積極
的に話し合うことができた。
子育て支援とは、保護者の要求に
対して何でもしてあげることではな
く、どんなふうにも子どもと関わるか
を園と保護者が一緒に考えていく
ことであるということも改めて学ぶ
ことができた。



短い時間ではあったが、子どもの
声を聴き、保護者の声を聴き、辛い
時、困った時にそっと手を差し伸べ
られる保育者になりたいと思わせて
くれるそんな研修となった。
この研修で学んだことを振り返り、
今後の保育に生かしていきたい
と思った。

資質向上研修③

期日 平成三十一年二月九日(土)
会場 コンセーレ(アイリスホール)

参加 五十八名

内容 「質の高い幼児教育」に
つながる園内研修
講師 宇都宮共和国大学 教授
高柳 恭子氏

一 はじめに
保育現場には夢
がある。それは園
の同僚とともに、
子どもたちの将来
に向けて何ができ
るかを考え実践できる喜びである。
二 幼児教育におけるカリキュ
ラム・マネジメントの必要性
幼稚園等では、教科書のような主
たる教材を用いず環境を通して行う
教育を基本としていること、家庭と
の関係において緊密度が他校種と比
べて高いこと、預かり保育や子育て
支援などの教育課程以外の活動が多
く実施されていることなどから、カ
リキュラム・マネジメントは極めて
重要である。



そして、これからの「保育」で一
番大切なことは、「主体的、対話的
で深い学び」を実践していくことで
ある。そのためには次の四点を効果
的に取り入れた「子どもが主体的に
取り組む遊びを中心とした保育」を
実践していくことが重要である。
①協同的な活動を取り入れていく
②子どもが面白いと感じたり、関
わったりしたくなる素材をふんだ

んに用意する

③園の環境を豊かにする

④保育者が対話を通して子どもの発
想を豊かにしたり考えを深めたり
していく

幼稚園での一番の学びとは、「遊
び」に夢中になる(没頭すること
である。すると、自分で目標をもつ
たり、挑戦をしたり、葛藤をしたり
するようになる。指示通りに動く子
を育てるのではない。

「遊び」でも毎日同じ形態でやっ
ていては意味がない。色々な方法を
工夫していくことが大切である。こ
のことが、主体的・対話的で深い学
びにつながる。

三 質の高い幼児教育の実現に向け
保育者の「保育力」を評価するシ
ートなどを活用する。その中に、来年
度の課題(目標)や具体的方策を記
す欄を設けるようにする。また週案
の内容等も工夫・改善するようにし、
これらをみんなで検討することで、
園内での主体的な研修を助長するこ
とができる。

四 園内研修の実際

参加者が四人一組程度に分かれ、
自分が勤めている園の園内研修の様
子について紹介し合い、その後代表
者が全体会で発表し、講師の先生に
講評やアドバイスをいただいた。

●園内研修の取組(抜粋)

・毎月第三金曜日四時から実施
・保育についての研修だけでなく、
環境面などについても研修を行っ
ている。

(例) 園庭ハザードマップの見直し

・危険と思われる場所に付箋を貼
り、全職員で対応策を検討。検討
後、新たなマップを保護者が来園
した時に見られる場所に掲示し
た。

・外部の方を講師とした研修は、夏
季休業中に実施している。

・年間の研修計画を年度当初に立
てている。計画には、研修内容や担
当も明記している。

・研修会に参加しての報告を研修に
入れるようにしている。

・預かり保育を非常勤の先生にお願
いして、できるだけ多くの先生が
参加できるようにしている。

●講師の先生の講評・助言

・研修会を実施することにより先生
方の保育活動に対しての課題意識
が高くなる。

・研修会を短時間で実施できるよう
にするため、事前に資料等を配布
し、説明や協議については重要な
部分を中心に行うなど運営方法を
工夫することが大切である。

・研修の年間計画を立てることはと
ても重要である。できれば三年間
くらいのスパンで研修内容を決め
ておくとうい。

・計画を立てる段階で、先生方の要
望や案なども入れるようにすると
よい。

・他の園(できれば他県)を見学す
ることも大切な研修である。

・保護者の方などを含め、外部の方
を講師としてどんどん活用すべき
である。

・意見を言いやすい雰囲気を作るこ
とが大切である。

・意見を出し合うことが大切である。

・意見を出し合うことが大切である。

・意見を出し合うことが大切である。

とはとても大切である。そのためにも、普段の先生方のコミュニケーションはとても大切である。何でも言い合える雰囲気作りをリーダーとなる先生方には努めてほしい。

設置者・園長経営研修会

- 期日** 平成三十一年二月十三日(水)
- 会場** 宇都宮グランドホテル
- 参加** 百六名
- 内容** ハラスメント防止で、ストレスフリーな職場環境
- 講師** 株式会社ミチスケジャパン
 弁護士法人ベンチャーサポート
 法律事務所 川崎 公明氏
 弁護士 永澤 有希氏

メモ

とは別に、学校環境衛生検査について、栃木県学校薬剤師会常務理事である廣田孝之氏から話があった。本来、学校としての幼稚園では学校環境衛生基準に従い環境の検査・整備に努めなければならないが、近年の認定こども園化に伴い、また今年度四月から基準が改正されたことで更なる対応が求められるようになった。そこで、配置が求められている学校薬剤師を活用し、園内の環境衛生の整備充実を図るよう助言をいただいた。

さて、いよいよテーマについて、講師のお二方を招いてスタートとなったが、最初は永澤氏が今の時代を映すような話題である「MeToo」からであった。ニュースでも取り上げられた有名人の報道を例

に、スマートフォン時代を代表する、ツイッター等のSNSから発信される「私も!」という意見がいかに影響力が大きいかを語った。そして「MeToo」という文化が日本にも根付いてきている現状を知らせ、その形も変わりつつあり、職場での「ハラスメント」の被害を「MeToo」として発信する危険性を指摘した。



いよいよ「ハラスメント」の話題となったが、提供された資料にはなんと三十六種類ものハラスメントが記載されていた。その中にはよく耳にする「パワハラ」や「セクハラ」の他に、耳慣れない「ソーハラ(ソーシャルSNS)」や「レリハラ(レリジャスII宗教的)」等、スマホや外国人労働者の増加という社会状況の変化により作られたものもあり、その種類はどんどん増えてきているという。では実際に園で働く上で起こるハラスメントはというと、苦心

されているであろう有給休暇や勤務時間の問題の他に、慰労会や教職員の呼称、衣服等細かい諸々の点についての例があがった。
 一通りの例の説明の後、弁護士である川崎氏より、それぞれの法的な

解説を受けた。もちろん全てが違法ではなく、ケースバイケースの事例も多く、いずれも教職員間の関係に依ることもあり対応を誤れば「MeToo」となってしまう可能性は否めない。具体的な対処法としては、就業規則に記載し遵守することだが、それだけでは済まない事態もあるはずだ。

問題の一端は「労働者の我慢と管理者の甘え」だと言う。例えば就業規則に記載しようと、現実はその通りにはいかないだろう。「昔は〇〇だった」は捨てよとは言うものの、古き良きもある。前号同様、新たな時代、新たな世代に対応する必要がある。翻って自園を顧みると、やはり前述の例であがった問題が横たわる。教職員間の密なコミュニケーションにより大きな問題とはならずとも、深いコミュニケーションはハラスメントの危惧が残る。



今後、様々な配慮が求められる時代に、園に携わるすべての人に健全で安心できる園運営ができるよう努力していきたい。

平成三十一年度幼稚園等問題研究会

- 期日** 平成三十一年三月八日(金)
- 会場** ニューみくら二〇七大会議室
- 出席者** 県保健福祉部こども政策課

班長 齋藤 淳 副主任 大根田 敦
 主任 神地 匡 主事 高岩 重成
 主事 三井 恵理子
 栃幼連
 副理事長・常任理事 地区会長

メモ

川副理事長より今回の研究会の趣旨などが述べられた。その後、富川総務委員長の司会のもと、以下の事項について協議された。

【協議事項】

- ・平成三十一年度県予算の概要について
- ・免許状上進について
- ・特別支援 教職員・保護者に向けた研修体制の構築について
- ・認定こども園への県単補助について
- ・外国人の生活習慣の問題について
- ・私学助成への処遇改善費について
- ・無償化に関する諸問題について

以上について、活発な意見交換がなされた後、船田副理事長より、「県の皆さまには感謝する、今後ともお力添えをいただきたい」と述べ、閉会となった。

今回の研究会が、よりよい幼児教育に繋がるよう期待する。





平成31年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	2,031,655	2,155,473	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児1人当たり193,500円(H30 189,700円) 3～5歳10,276人 満3歳778人 一種免許状加算分3,294千円 処遇改善加算分13,230千円
2 幼稚園教材費等補助金	939	939	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成 園児1人当たり 39,100円(H30同額)
3 地域子育て推進事業費補助金	131,160	163,080	
(1) 子育てランド事業	28,160	27,080	私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成 A 2事業実施かつ市町補助130千円以上 1園当たり 130千円 B 3事業以上実施かつ市町補助200千円以上 1園当たり 200千円
(2) わんぱく保育推進事業	103,000	136,000	私立幼稚園及び認定こども園が行う預かり保育事業に対する助成 ○通常分 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ○特定分(4時間超)1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○長期休業分 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○休業日分 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 私立幼稚園振興財団補助金	206,843	224,738	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 → 教職員標準給与額の29/1000
5 特別支援教育費補助金	538,608	497,057	特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成 学法 784千円/人(国庫、県単) 学法以外 392千円/人(県単)
6 私立学校教職員共済補助金	146,750	153,399	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(H30同率)
7 私学団体補助金	6,000	6,000	
(1) 栃木県幼稚園連合会補助金	3,000	6,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
(2) 幼稚園特別研修費補助金	3,000	0	栃幼連が行う子ども・子育て支援新制度を踏まえた研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
8 被災児童生徒就学支援等事業費	1,025	1,028	東日本大震災の被災幼児に係る保育料等減免事業に対する助成 ・補助率 10/10
9 幼稚園耐震化事業費	596,640	618,955	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率 1/2
10 幼稚園緊急環境整備事業費	106,585	75,590	○学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2 左記以外幼稚園 1/3 ○認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2 ○認定こども園等への移行支援 ・補助率 1/2 ○園務改善のためのICT化支援 ・補助率 3/4
11 施設型給付費	8,101,056	8,820,851	施設型給付に係る市町への負担金及び補助金 ・県負担割合 全国統一費用部分1/4 (1号園児は地方単独費用部分1/2あり)
12 一時預かり事業	240,991	246,862	一時預かり事業を実施する市町に対する助成 ・県補助率 1/3
13 認定こども園整備事業	541,338	282,627	認定こども園の幼稚園部分の施設整備事業を実施する市町に対する補助 ・県補助率 1/2
14 第3子以降保育料免除事業費	832,197	583,719	第3子以降の未就学児の保育料免除事業を実施する市町に対する助成 ・県補助率 1/2
15 幼児教育・保育無償化事業費	0	2,883,976	幼児教育・保育の無償化に要する経費
計	13,481,787	16,714,294	

平成31年度予算案の内容について

14.の本年10月からの幼児教育無償化を見据えて、栃木県独自の政策で半年前に前倒して4月から「子ども・子育て支援多世代保育料免除事業(3人いれば保育料免除)」が、31年度予算案に盛り込まれなかったことは残念である。

1.の私学助成幼稚園に対する運営費補助金については、国庫補助と地方交付税の増分として園児1人当たり2,600円増となった。さらに毎年度要望してきた県単補助4,800円がついに1,200円増の6,000円となった。

また5.の特別支援教育費補助金の増額が実現し、在園1名でも784,000円となった。

7.の(1)、(2)の300万円ずつ2つに分かれている研修事業補助金を600万円に一本化することができた。

その他上記以外の事業については、現状維持にとどまったが、新制度の園、私学助成園にとってもメリットのある増額を見込めた事は、福田知事をはじめ自民党県議の皆様のご尽力の賜物であり、この紙面を借りて心より感謝申し上げます。

尚、平成31年度予算案に新たに15.の「幼児教育・保育無償化事業費」が設けられたことを付記する。

振興委員長 山越 忍隆



今年度も各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

平成三十一年度の新採研を振り返って



昨年の十二月二十六日をもって、園外研修全九日が終了しました。最終日は、十一の班に分かれ、各指導助言者の下、指導計画について学びを深めました。保育のねらいと目の

前の子どもの姿が異なるときの考え方など、受講者間の話合いに深まりを感じ、一年間の成長を嬉しく思いました。

一年間の振り返りでは、「四月の時の自分とはかなり違っていることに驚きます」「保育の話を持共有できる仲間が増えました」などの感想が寄せられました。

ぜひ、研修の成果を子どものために生かしてください。



文部科学省

中央協議会で発表しました

十二月十三・十四日に、国立オリンピックセンターで文部科学省主催の中央協議会が開かれました。今回、栃木県が発表を行いましたので、紹介します。

【第一分科会：カリキュラムマネジメント】



研究発表
「新教育要領をもとに、組織的かつ計画的に教育課程を見直す」
野崎幼稚園
認定こども園
山越美夏先生

日常と教育課程が直結していることを保育者全員が実感することで育成の方角性も共有できます。

要旨をまとめた冊子と、美しくデザインしたスライドを使って、各都道府県から集まった参加者に、園の研究を伝えました。次々と出る質問にも、笑顔で分かりやすく答える姿が印象的でした。

栃木県教育研究発表大会

— 幼小連携部会 —

一月二十六日に、総合教育センターで栃木県教育研究発表大会を開催しました。幼小連携部会では、「豊かな学びを保障する接続期のカリキュラムとは？」をテーマに、那須

町が実践発表を行い、幼小・保・小・行政・学生等、様々な立場の方でグループを構成し、協議しました。

実践発表では、那須みふじ幼稚園、那須町大同保育園、那須町立田代友愛小学校、那須町教育委員会が、一体となって発表しました。発表の中で、子どもや教職員同士の交流の大切さ、実践を伴ったアプローチカリキュラム作成の過程と成果等が報告されました。



那須みふじ幼稚園
松浦恵美子 副園長

参加者からは、「幼小・保・小・行政それぞれの立場からの発表で分かりやすかった」「町全体

での取組がうらやましい」等の感想がありました。

実践発表を基に、各々の立場で幼小接続期の教育の在り方を自由に語り合う大変有意義な時間となりました。

幼小連携推進者養成研修

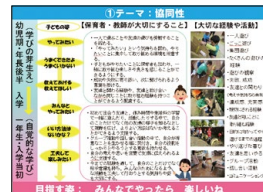
この研修は平成二十八年度から始まり、各地区で幼小連携を推進していく中心的な役割を担う人材を養成することを目的にしています。

各地区から推薦された四十人の教職員が幼小でペアになり、一緒に授業・保育参観をしたり、相互に職場

体験をしたりしながら、一年間をかけて接続期のカリキュラム（ジョイントカリキュラム）を作成します。

今年度はカリキュラム作成の視点を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中から選べるようにしました。

二月八日には最終日を迎え、一年間の成果の発表会を行いました。受講者からは、「幼小連携の大切さを実感した。もっと頻繁に小学校の先生と語り合いたい」「幼児教育の重要さを再認識し、保育を見直す機会になった。指導計画を見直したい」等の感想がありました。今後は、各地区の幼小連携推進者として本研修で得た成果を広めてほしいと願っています。御活躍を期待しています。



★三月十三日発送物のご連絡とお願い★

○「幼小の接続に関する指導資料」を作成しました。

幼小接続期に大切にしたいことを三つの「つなぐ」からまとめました。

○次年度の「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」の照会（文書）を発送します。お手数ですが、御報告をお願いします。





こども政策課だより

各種提出書類について

運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇一九年五月上旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇一八年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いいたします。

教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇一九年五月上旬（予定）です。

運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇一九年四月上旬（予定）です。

二〇一八年度決算書及び二〇一九年度予算書の提出について

二〇一八年度決算書及び二〇一九年度予算書の提出期限は、二〇一九年六月二十八日（金）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園・認定こども園宛てに別途メールでお送りします。

資産総額の変更登記届

二〇一八年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期限（五月末日又は六月末日）までに、期限後一ヶ月以内に登記済届を提出してください。
※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

保育教諭の資格について

幼保連携型認定こども園に勤務する保育教諭は、保育士資格及び幼稚園教諭免許状の両方の資格等を有していることが必要とされていますが、子ども・子育て支援新制度施行後五年間に限り、いずれか一方の資格・免許状のみで保育教諭等となることのできる特例が設けられています。

本特例については、さらに五年間特例期間が延長される予定ですが、栃木県内の幼保連携型認定こども園に勤務する保育教諭の保育士資格・幼稚園教諭免許状の併有割合は八十八・六％にとどまっており、今後とも、保育教諭が計画的に資格・免許状を取得していくことが必要です。

資格等の取得がお済みでない職員がいる場合は、特例制度の活用等を御指導いただくとともに、幼稚園教諭免許状の更新が必要な職員についても併せて御指導いただくようお願いいたします。

なお、栃木県では資格取得に必要な経費の一部を補助する資格取得支援事業を実施しております。事業の詳細についてはこども政策課までお問い合わせください。

平成三十一年

四月～六月までの事業予定

4月3日	新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修）
5月13日	認定こども園委員会研修
5月14日	保育テクニカル講座
5月15日	※5年目研修
5月16日	栃幼連 定時総会（30年度決算総会）
5月21日	※幼小連携推進者養成研修
5月28日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
6月4日	①新採研 公開保育（宇大附属幼稚園） 資質向上研修（視察研修）
6月6日	※教育課程研究集会
6月12日	※教育課程研究集会
6月13日	※教育課程研究集会
6月14日	全私幼退団協議会総会（埼玉県青年部全体委員会・研修会）
6月18日	※新採研 指導助言者説明会
6月20日	※幼児期の特別支援教育研修
6月22日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園） 保育セオリ―講座
6月24日	②新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）
6月27日	※は幼児教育センター事業

総会予告

栃幼連 定時総会

平成三十一年五月十六日（木）
会場：コンセーレ

慶事

足利市 花園幼稚園
創立九十周年記念式典
平成三十一年三月九日

編集後記

今年は、様々な変化の年となる。まずは「年号」である。各園で事務関係は混乱する。年号を使うのか？それとも西暦にするのか？平成と記載された書類は年号のみ貼り替えて使用するのか？作り直しか？四月に決定されるので大忙しだろう。

次は「消費税」である。たかが二%だがされど二%。各園の大蔵省が厳しくなる。しかし、消費税の値上げにより幼児教育・保育が充実するのは大歓迎である。

そして「幼児教育・保育の無償化」。やっと世界レベルに近づくはじめの一步となる。検討する事項はあるが大切な幼児の時期を分け隔てなく教育できることはとても素晴らしいと思う。

来年は東京オリンピック！日本選手のメダルに期待が高まる。

華やかな祭典の裏では、幼児・児童に対しての貧困、虐待など様々な問題を抱えているのも事実。生きる力を与えるために関係者一同のさらなる努力に期待したい。

（齋藤達成）